

額 堂 (額や絵馬を掲げておくお堂) 重要文化財

額堂とは、奉納額や絵馬を掲げる建築物であり、このお堂は文久元年（1861年）に当山で2番目の額堂として建立されました。建物は桁行正面が3間（約5.5メートル）背面は6間（約11メートル）で、屋根は入母屋椼瓦葺です。現在は四方が開放されていますが当初は背面が板壁でした。組物は平三斗、中備藁股、二軒の半繁垂木です。額堂としては虹梁や木鼻など細部まで本格的な建物で、近世における庶民信仰をあらわす代表建築の一つであります。建築の各部に見られる竜や獅子などの彫刻は後藤勇次郎経慶の作です。

なお当山には、江戸歌舞伎界の名優成田屋こと七代目市川團十郎丈により寄進された額堂（第1額堂）が三重塔脇にありましたが、昭和40年に焼失しました。中央部にある石像はその七代目団十郎像であります。

これらの額堂には絵馬類がたくさん掲げられていましたが、貴重な文化財として、現在は成田山霊光館に保存されています。

額堂入母屋懸魚後部の彫刻は不動明王



額 堂



三升の額堂



左目あり 木鼻龍

額堂は東日本大震災で少し右側に傾いている為現在は柵で囲われている為、中に入ることが出来ない。（耐震補強を実施予定）

七代目市川團十郎寄進の三升の額堂（1821～1965年）は昭和40年（1965年）不審火により焼失。七代目市川團十郎の石像の鼻が欠けているのを、市川宗家は非常に悲しんでいた。

また昭和40年に第一額堂（三升の額堂）が焼失した時九代目市川團十郎氏は非常に残念がっていたと伝えられています。この年の暮れに亡くなりました。

額堂左隅頭貫の龍は左目のみ銅の目が残っている。

全ての龍に目が入っていたが、何らかの理由で無くなったものと思われる。

額堂床の奉納物



「勝軍地蔵尊」



「方位盤」



七代目市川團十郎
石像は1830年頃制作



「旧梵鐘」

この梵鐘は江戸時代末当山中興第十三世照輪僧正代に神田鍋町の藤原国信により鑄造され現本堂が完成する昭和四十三年まで毎日時を告げていた鐘である。

重さは 912,5 キロ （1636 年鑄造の梵鐘は供出された）

1867 年の鑄造と思われる。

第十三世原口照輪（1815～1882） 1867 貫首 1882 遷化
昭和 43 年(1968 年)当額堂内に移設いたしました。



「青銅製大地球儀」

明治 40 年(1907 年) 奥平 洋三、梅子夫妻が奉納

参拝者が触った為か日本国の地図は

擦り減って見えないが「大日本国」の文字は見える。

地球儀を奉納した牛肉店「世界」は現在あるのでしょうか？

世界で一番古い現存している地球儀は

ドイツで 1492 年に製作された物です。

世界初の地球儀は紀元前 150 年頃トルコで製作された。

現存する日本最古の地球儀は渋川春海氏が製作した物で、

元禄 3（1690）年に伊勢神宮に奉納されている。

松浦史料博物館には、第 7 代藩主松浦静山が長崎で購入した
1700 年製のオランダの地球儀と天球儀があります。

青銅製大地球儀

現存する最古のものは渋川春海（1639-1715）が製作したもので、元禄 3 年（1690）に伊勢神宮に奉納され、同徴古館に所蔵されています。また、平戸市の松浦（まつら）史料博物館には、第 7 代藩主松浦静山が長崎で購入したという、1700 年製のオランダの地球儀と天球儀が残されています。そして、天理大学附属天理図書館は、西洋古地図や絵地図の他、欧州製の地球儀と天球儀を約 50 個も所蔵しています。床面には左から

「旧梵鐘」 「勝軍地藏尊」 「方位盤」 「成田屋 七代目市川團十郎の座像」そして、「青銅製地球儀」が鎮座しています。

この地球儀は、明治 40 年（1907）11 月に東京上野の牛肉店の奥平洋三、梅子夫妻が店名の「世界」にちなんで、日露戦争（1904 年 2 月 8 日 - 1905 年 9 月 5 日）の戦勝記念に奉納したもので、直径 110cm ほどの青銅製で子午環の上に 23.5 度の傾斜をもって設置されている。過去には、その脇に説明書きがあり、「日本帝国を銀色にしたのは、目立つように見せるためであり、これによって見物人がこの国のことを思い、将来の発展と輝かしい国づくりを心がけてほしい」との願いが書かれていた。

当時は大日本帝国の範囲に銀の象嵌（ぞうがん）を施していたが、今ではその面影はない。

毛 綱

三重塔そばにあった第一額堂(三升の額堂)隅の方には、御信徒の女性が奉納した髪の毛で編んだ毛綱が 2 メートルの高さに巻かれて置いてあった。現在は霊公館にて保存している。

長さ数百メートル 太さ 6 センチ 光明堂を山上に引き上げる時に使用されたといわれている。

揭示額



後藤清次郎



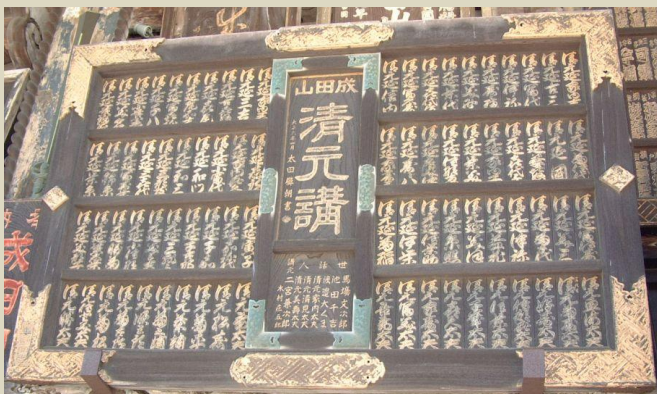
後藤仙之助 明治十八年(1885)



後藤祐正



杉崎弥八



天保二年(1831) 補講 後藤正忠門弟 市蔵正國



明治四拾参年五月吉祥日 後藤祐正
十代唐四郎を名跡祈願した奉納額と思われる



嶋村俊明は十八歳時(明治六年)